

派、陽明学派に大別されるようになり、さらに加えて中国へのあこがれにもどづく長崎唐話学がおこり、幕末の漢詩文作りはとみに盛んとなった。医学、医術においても漢学に応じるように、古医方、後世方、本草学等の流派の発生をみ、またオランダに代表されるヨーロッパへのあこがれは蘭医方として一派をなした。このような歴史の流れの中で、医師が余技としての漢詩作りをしても少しもおかしいことではない。伝統的な学芸参加といえるのではないか。

著者は、幕末の「儒医」論争に多少のこだわりがあるようであるが、志業一本の儒医という限定した概念にとらわず、専門儒家、専門医家、儒医兼業家（主儒従医、主医従儒）の三者すべてを取り上げた。久坂玄機、玄瑞兄弟は本質的には医であり、松本涛庵もまた医学専従者であった。高杉晋作は儒に準ずる者であり、古谷道庵、中村徳貞、

福地苟庵は儒医を兼業し、吉村秋陽と広瀬旭荘は天下の名儒であった。これらの人々の知られざる文化業績を幅広く紹介している。本著を契機に医術、医学方面の業績に少しでも切り込んでいただけたらと願ってやまない。筆者の好みからいうと、東京・共慣義塾設立にかかわった福地桜痴の父、苟庵についてももっと知りたい。小生は、ホブソン著の『全体新論』関連にかかわる小話しか知らないからである。

純粹医学史ではないが、医人研究の新しい部分を開拓されたことに敬意を表したい。

諸家のご一読を希望する。

(中西 淳朗)

[K.K.知泉書館, 〒113-0333 東京都文京区本郷
1-13-2, 2006年10月刊, 340頁, 6,000円+税,
TEL.03(3814)6161]

陳明著

『殊方異藥——出土文書与西域医学』

2007年4月からNHKで「新シルクロード 激動の大地をゆく」が放送されている。NHKのシルクロード特集は、2005年の放送開始80周年記念事業「新シルクロード」に続き実に4回を数えており、このことからして日本において西域は非常に人気が高いのがわかる。西域という言葉から広大な草原や砂漠を連想するように、雄大なイメージに魅せられているからだろう。そのイメージ通り、西域を対象にしている研究は扱う地域が広く、また期間も長い。西域は多言語社会でもあるため、西域を研究するためするには諸民族の使用している多言語に精通しなければならない。そのため評者をふくめて西域学の門外漢にとっては、概略を理解することだけでも非常に困難なことになっている。

著者である北京大学の陳明氏は西域の医学史を研究対象としており、本書は「印度梵文医典『医理精華』研究」(2002年,中華書局)に続けての出版となる。西域はウイグル語・チベット語など

様々な胡語が使用されている多言語社会であるが、医学の上では梵語そしてアーユルベーダ医学が基底となっており、西域の医学が外の文化(インドそして中国)からどのような影響をうけてきたかを本書において論じている。本書は次の各章から構成されている。

縮略語 (VII)

図表目録 (VIII)

第1章 残方断簡——西域出土胡語医学文書及其研究概説 (1)

第2章 生命吠陀——西域出土胡語医学文書の知識来源 (19)

第3章 神牛五淨——西域出土胡語医学文書中的宗教因素 (44)

第4章 三辛治眼——西域外来的眼科知識及其応用 (68)

第5章 護諸童子——西域的Bāla-graha 図像及其童子方 (91)

第6章 仙藥長命——西域長年方与唐代長年婆

- 羅門の製薬 (107)
- 第7章 情性至道——西域“足身力”方与敦煌
房中方薬 (126)
- 第8章 備急单験——敦煌漢語医薬文献中的单
薬方 (142)
- 第9章 諸医方髓——俄藏敦煌文章中の一組吐
魯番医学残卷 (157)
- 第10章 八術三俱——敦煌吐魯番文章中的印
度生命吠陀理論 (168)
- 第11章 殊域方薬——吐魯番漢文医学文章中
的外来因素 (182)
- 第12章 烏髮沐首——西域胡語医学文書中的
生活習俗例積 (214)
- 第13章 中古中外医学文化交流の燦爛一頁
(代結語) (235)
- 付録として『鮑威爾写本』(巻1~3)と『耆婆書』

残卷の翻訳と鮑威爾写本梵漢辞彙表・主要参考書
目・索引・後記が附いている。

本書は、前世紀から現在に至るまで盛んに発掘
されている出土文書の成果を利用し、西域で行わ
れてきた伝統医学を鮮やかに描いている。また西
域の医学がアーユルベータ医学を基礎としている
以上、宗教的な側面や特有の習俗も見逃せない
が、出土文献や図像を使うことにより、宗教的な
側面や特有の習俗をも鮮やかに描くことに成功し
ており、西域で行われていた伝統医学に対して理
解を深めたいと思う読者の要求に応える一冊と
なっている。

(永塚 憲治)

[北京大学出版社, 北京市海淀区成府路205号,
B5判, 総406頁, 2005年6月第1刷発行, 定
価48元]